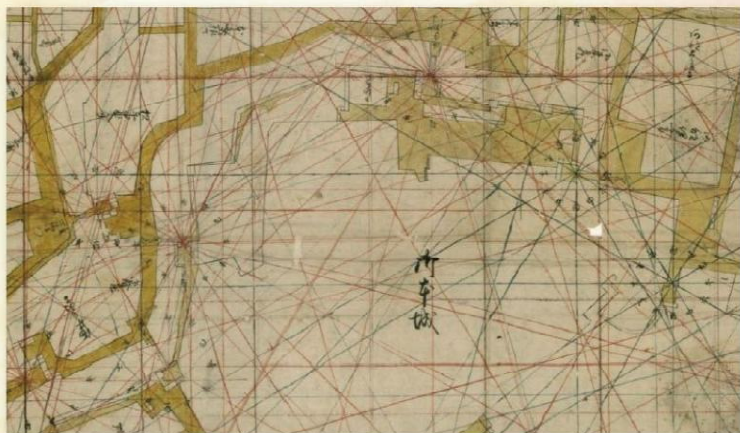


万治年間江戸測量図



「万治年間江戸測量図」部分（御本城＝江戸城本丸付近） 公益財団法人三井文庫所蔵

明暦3年（1657）1月の大火後、大目付を勤め、西洋式測量術の第一人者であった北条安房守氏長が、幕府の命を受けて江戸の正確な測量図を作成しました。このことは史料から判明していましたが、実際の図は見つからず「幻の図」とされていました。ところが昭和29年（1954）、評論家三宅雪嶺氏の遺品の中から発見され、その後三井文庫に所蔵されるに至ったのがこの図です。

調査に当たった秋岡武次郎氏により、単円筒図法による実測図で、縮尺は1/2600と計算できる、明暦期の実測であることが実証されました。実測に基づいた精度の高い江戸図としては最古のものとなります。江戸城本丸付近をアップにした上の図を見ると、江戸城の見附等をポイントとして何力所も放射線が引かれ、「子・丑・寅…」と十二支で方角が示されています。磁石で北を確定しこのような測量が繰り返されていたようです。

なお、景観年代については近年、岩本馨氏が寛文2年（1662）から翌年まで下ることを指摘しています。

本図は、のちに刊行される江戸図の基礎として利用されていきました。